

視察先・ゲスト 概要

【視察先1】 くまっこ農園 渡辺 重貴 氏



就農した年の秋、畑にまいた米ぬかを食べに親1頭、子2頭の熊が現れたことから「くまっこ農園」と命名。



1. 就農までの経緯と生産の方針

仙台市出身。大学卒業後、海外でのNGO活動を通して有機農業に出会った。自分でまいたトウモロコシの成長を見ながら、穂った時に生でまるかじりした感動が農業をするきっかけとなった。帰国して食品会社に勤務したが、農業への想いが強く退職。秋保で2年間の研修後、家族の反対を押し切って34歳の時、秋保で就農。

農薬、化学肥料を一切使用せず、多品目野菜を生産し、こだわりのある消費者や業者に販売している。

2. 農地について

圃場の道路条件は良かったが、遊休農地であったため、柳や蔦が生い茂り、開墾からのスタートだった。1年目は猿で全滅し、電柵を設置した。カラスによる被害の他、熊、イノシシなどもよく出現するところ。鳥獣害対策に悪戦苦闘しながらも140aの露地畑の他、施設での栽培を行っている。

3. 販売先の確保

宅配会員を募集するため、6千枚のチラシを配布したが、販売につながらず…。ホームページ開設で徐々に顧客を獲得。現在、会員数は、70軒程。宮城野区からの通勤農業を逆手にとり、農地と自宅の間を納品・配達先として、消費者に直接販売している。

また、販売先店舗を探して、有機野菜専門店に飛び込み営業を行う等で販路開拓に努めた。現在は、JAたなばたけ（宮城野区福室）や生協のほか、フジサキや自然食品店等で販売を行っている。

4. 研修について

研修受け入れも積極的に行っている渡辺氏であるが、研修性に求めるものは、「やる気・根性・向上心」の三つ。

今年4月からの研修生に聞くと…その日の作業について、説明を受け「何のために行うか」を理解してから作業を行う。そのため、大変ではあるが、充実していてとてもやりがいがある…とのこと。

5. 就農希望者に一言

近隣に迷惑をかけない配慮が大事。畑を荒らさないよう、草取りにかかる労力は大きい。通勤農業であっても地域にとけ込まないとやっていけない。

あいさつや世間話などコミュニケーションをとること、そして、人の2倍働く気持ちが必要。スローライフでは、食べて行けない。